

日程表

12月6日(金)

9 00
10
20
30
40
50
10 00
10
20
30
40
50
11 00
10
20
30
40
50
12 00
10
20
30
40
50
13 00
10
20
30
40
50
14 00
10
20
30
40
50
15 00
10
20
30
40
50
16 00
10
20
30
40
50
17 00
10
20

9:00	
9:10	
9:20	
9:30	
9:40	
9:50	
10:00	
10:10	
10:20	
10:30	
10:40	
10:50	
11:00	
11:10	
11:20	
11:30	
11:40	
11:50	
12:00	
12:10	
12:20	
12:30	
12:40	
12:50	12:50~13:00開会式
13:00	13:00~14:30 シンポジウム1(生物) 基礎生物研究から新たな治療法に向けて
13:10	
13:20	
13:30	量子ビーム誘発変異の特徴解明と実用品種開発 長谷 純宏
13:40	古くて新しいホウ素中性子捕捉療法~作用メカニズムから治療まで~ 松本 孔貴
13:50	重粒子線の心臓治療応用までの道のりを振り返って 網野 真理
14:00	
14:10	
14:20	
14:30	
14:40	14:40~16:10 シンポジウム2(物理) 物理が切り開く新たな治療法への可能性
14:50	
15:00	超偏極MRI(物理、量子の観点) 根来 誠
15:10	セラノスティクスに向けた薬物動態可視化の試み 片岡 淳
15:20	ホウ素中性子捕捉療法(加速器、物理中心に) 田中 浩基
15:30	
15:40	
15:50	
16:00	
16:10	16:10~17:00 ポスターセッション
16:20	
16:30	
16:40	
16:50	
17:00	17:00~19:00 情報交換会
17:10	
17:20	

12月7日(土)

09:00~10:50	シンポジウム3(医療) 粒子線治療の現状と今後の展開
	膀胱癌に対する陽子線治療 西岡健太郎
	子宮頸癌に対する重粒子線治療 安藤 謙
	小児腫瘍に対する陽子線治療 水本 斉志
	マルチイオン照射の研究開発 福庭 拓
	量子メスのためのマルチイオン照射に対応したECRイオン源の開発 片桐 健
11:00~11:50	一般講演1
	重粒子線治療と相関する治療後バイオマーカーの探索 相場 俊樹
	深宇宙探査に向けたその場個人被ばく線量計測技術の開発 小平 聡
	宇宙環境における重粒子線被ばくに対する線量評価の高度化 -飛跡構造モデルに基づく線量係数の評価- 内藤 雅之
12:50~14:00	一般講演2
	炭素イオン線照射と抗CTLA4抗体併用療法による アプスコパル効果を誘発するための適切な照射線量 馬 立秋
	重粒子線は複雑なDNA損傷応答経路を介し、 子宮頸がんのHLA-ABC発現を回復する 中島 菜花子
	金ナノ粒子によるDNA塩基損傷収率の増加 吉田 思乃香
	放射線発がんモデルマウス胸腺リンパ腫を用いた 炭素線被ばくによる発がんメカニズムの解析 砂押 正章
	炭素イオン線超高線量率照射がマウス皮膚 早期反応に与える影響 吉田 由香里
14:00~14:50	一般講演3
	液体中に入射した短寿命核 ¹⁷ Nの高分解能ベータNMR分光 三原 基嗣
	Study on Non-uniformity of Single-Cell Dose Distribution in Targeted Alpha Therapy 黄 達民
	¹² Be ⁺ ビームのアイソマー比決定およびアイソマー状態の 崩壊分岐比・半減期の高精度測定 田口 誠
	つくば型BNCT用治療装置“iBNCT001”での 治験実施に向けた物理学的特性測定 熊田 博明
15:00~16:30	特別セッション(融合) 未来の量子医学の為の異分野融合
	超偏極-MR代謝イメージングの応用開発と臨床実装へ向けた取り組み ~がん医療の高度化から未病診断まで~ 高草木 洋一
	ナノ量子センサーが可能にする微小・微量の生命計測 五十嵐 龍治
	アスタチンを用いた標的アルファ線治療 渡部 直史
16:30~16:40	閉会式